

「Fukuoka Art Next」今月のアート（11月）

福岡市は、彩りにあふれたアートのまちを目指して、暮らしのなかで身近にアートに触れる機会を増やし、アーティストの成長支援に取り組む「Fukuoka Art Next」を推進します。

市民がアートを身近に感じられるよう、福岡で活躍しているアーティストの作品を、月初めの定例会見において紹介します。

■ アーティストについて

興梠 優護（こうろぎ ゆうご）

1982年熊本県生まれ、福岡市在住。東京芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。拠点を様々な場所に移しながら、光、色彩、視覚といった曖昧で移ろいゆくものに着目した絵画制作を行う。2024年「Fukuoka Wall Art Project」優秀賞受賞。

■ 作品について



作家名 : 興梠 優護
作品名 : ≡ 22
制作年 : 2024年
材質技法 : 油彩・画布
サイズ : 50.0×72.7 (cm)

木漏れ日の落ちる池を思わせる画面。その中には、人の顔、博多山笠の一部、福岡城のお濠の蓮、火事羽織の模様など、現在と過去のイメージが多層的に描かれています。画面を遮る帯状の雲のような形は、福岡市博物館が所蔵する「福岡図巻」の霞の表現に着想したものです。作家は、福岡に積み重なる時の流れの美しさを、繊細な筆致とイメージの複雑な重なり合いによって表現しました。

【お問い合わせ先】

経済観光文化局美術館学芸課 担当：ラワンチャイクン、後藤

TEL：714-6054 FAX：714-6145 E-mail：rawan@fukuoka-art-museum.jp